

令和5年度 日下地域ケアプラザPDCAシート\_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

昨年度新型コロナウイルスによる感染は徐々に減少し感染症の位置づけも季節性インフルエンザと同様の扱いに位置づけられる予定です。マスクの着用も個人の判断に委ねられなど感染拡大防止の取組も徐々に緩和の方向で社会全体が動きだしていくと思われま。ケアプラザの利用もこの3年間、コロナ前に比べ半分以下の利用状況に陥るなどの影響を受け、保健活動団体の活動の縮小や地域の行事等にも影響していました。緩和後はこれらの状況も徐々に改善されていくと思われまが、新型コロナウイルスに感染し重症化するリスクは依然として残っていると思われま。ケアプラザは、デイサービスの利用も含め高齢者の方々が多く利用する施設であることから感染に対する警戒は緩めず、利用される方々にも感染予防の協力をお願いしながら「身近な福祉保健活動の拠点」として地域の福祉保健活動の支援を充実させることを目指しま。また、個別の支援においても、各部門の専門性をいかし連携するとともに外部の関係機関とも連携しながら支援が必要な方々に寄り添ってまいりま。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	認知症についての理解を深めるために、専門家や当事者による講演会等を開催しま。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	住民主体の「集いの場」新規立ち上げの調整役として地域交流コーディネーターと連携して支援し、高齢者が身近な場所で集える新たな場として周知していきま。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	コロナ過で希薄化していた「人と人」「活動と活動」のつながりを再構築する機会として、約4年振りのお祭りを企画・開催。 ケアプラザだけではなく、地域全体で取り組むことで、住民自らが地域の魅力を再認識・発見するきっかけづくりの場と
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	高齢者一人ひとりが自分の健康増進・介護予防を主体的・継続的に行うことができる様に、介護予防普及啓発をしていきま。コロナ禍で活動を休止していた通いの場の活動再開に向けて、支援をしていきま。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	「介護者のつどい」を勉強会の場とし認知症理解、権利擁護などに関する情報提供を行いま。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

新型コロナウイルスによる感染も減り地域の行事や福祉保健の活動も活発に行われるようになってきました。ケアプラザも地域の福祉保健の拠点としてこれまで低迷していた利用状況を回復させるために様々な工夫をして取り組みました。その一環ですが10月にケアプラザ祭りを実施してケアプラザに関係する多くの方々の更なる活動の支援と地域に対してケアプラザを新たに知ってもらう機会をつくることができました。また、児童およびその親を含め参加したウォークラリーは、ケアプラザの中だけでなく地域の高齢者や子育て支援で活動されている活動拠点をまわってもらうことで地域の支え合いの一端を知ってもらう良い機会を作れたのではないかと思います。まだまだコロナ前のような利用状況には及びませんがケアプラザが福祉保健の身近な拠点として気軽に利用してもらえるように取り組んでまいりたいと思いま。

## □ 区からのコメント

4年ぶりのケアプラザ祭りの開催、お疲れ様でした。日下地域ケアプラザに限らず、今年度久々にお祭りを開催したケアプラザは多く、どのお祭りも多くの来場者がありました。地域の方々はその交流の場を待ち望んでいたように思います。引き続き、子どもや高齢者、障害者等の地域の方々がつながるきっかけとなる「場」を提供いただければと思います。認知症支援事業においては、着実に普及啓発を推進しました。具体的には、神奈川オレンジ大使を招いての認知症当事者からの話や、在宅医療の実際を医療従事者から学ぶ等、勢力的に情報発信し知る機会を提供しました。また、「子育てLINEサービスwith港南」や「まちの子育て情報サイト～コードモト」を活用し情報発信を行う等、感度の高い対応をしていただきました。権利擁護業務では、社会福祉分科会と連携し、ケアマネジャー向け虐待研修を通して、包括支援センターの相談窓口を周知しました。

地域ケア会議を開催したことで、地域の課題を参加者で共有することができました。引き続き、地域ケア会議を積極的に活用し、地域課題の抽出、検討メンバーの選考等、柔軟な支援体制の構築に向けた取組みが展開されることを期待します。